

〈統計ピックアップ〉

「空手に先手なし」  
～平和の武、守礼の心～



いー そーぐわち でーびる。今年ん ゆたさるぐうとぅ願え さびら。

さて、新年最初のピックアップは、新春にふさわしく？「空手」にスポットを当ててみました。

「空手」は700年ものほるか昔、ここ沖縄で誕生したと言われています。

初め「手(テイ)」と呼ばれたそれは、やがて「マキワラ」などの鍛錬具による独特の鍛錬法や素手による護身の武術、棒・サイなどの武具を使用する武術として「型」を生み出し、沖縄空手の世界を完成させ発展しました。

「空手に先手なし」「人に打たれず、人打たず、事なきをもととするなり」

礼節を尊ぶ平和の武として、技法や技術だけでなく、守礼の心を学ぶことこそが大切であるとされています。

なお、世界の空手道愛好者数はおよそ1億3000万人以上、世界193の国と地域で普及していると言われています。

(参考)

国内・海外の空手道愛好者数(2016年3月8日)

日本国内 愛好者:200万人

世界全体 愛好者:1億3000万人

世代別内訳	人数
小学生・幼児	1,000,000
中学生 (中学武道必修教育含む)	200,000
高校生 (部活動所属者含む)	200,000
一般	600,000
日本国内 計	2,000,000

主な国内別内訳	人数
インドネシア	5,000,000
インド	4,900,000
エジプト	4,000,000
日本	2,000,000
イラン	1,300,000
フランス	1,000,000
ブラジル	500,000
トルコ	250,000
イギリス	250,000



(資料) 沖縄県空手振興課「沖縄伝統空手・古武道実態調査業務報告書」(空手道マガジン月刊JKFan編集部調べ)

世界中で愛される「空手」。沖縄県内には、約400以上\*もの道場があり、多くの方々が日々稽古に励んでいらっしゃいます。これらの道場、いつ頃開設されたものかご存じでしょうか。(表1)

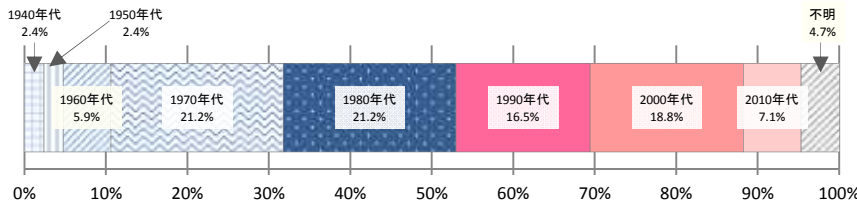


表1:道場の開設年代(n=85)

古くは1940年代頃から始まり、その後、1980年代までに現在の約半数の道場が開設。1970年代から2000年代までがそのピークだったことがわかります。現在ある道場のほとんどは、戦後開設されたもののようです。

\*平成26年の調査時点で420カ所。(極真空手に代表されるフルコンタクト系は除く。)

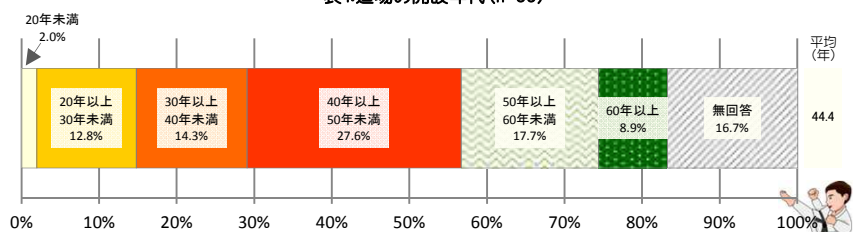


表2:道場主の武歴(修行歴)(N=203)

次に、これら道場主の「武歴(修行歴)」をみてみることにしましょう。(表2)

なんと、この道場主の武歴、平均は44.4年、50年以上の強者も約27%いらっしゃいます。スゴイっ。きっと、並大抵の努力ではなかったでしょう…。

では、師匠とくれば弟子。門下生の状況はどうでしょう。表3は、門下生の男女比を示したものです。男性75%、女性25%と圧倒的に男性が多いようです。やはり、武術は男性に人気ですね。(確かに、カッコイイ…。)

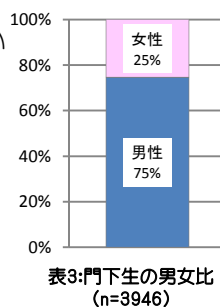


表3:門下生の男女比(n=3946)

これを年齢層別にみると、小学生以下の割合が47%と圧倒的に多く全体の約半数を占め、続いて、一般で37%となっています。(表4)

それとは対照的なのが、中学生と高校生。その割合は、ぐっと低くなっています。部活や受験勉強など、進学するにつれ状況が変化し、空手との両立が難しくなってしまうのでしょうか…。なんだかもったいない気がします。

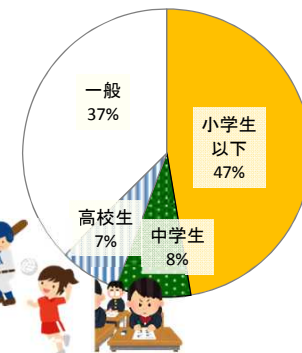


表4:門下生の年齢層(n=4000)

ところで今更ですが、皆さんは「空手発祥の地」がどこかご存知ですか。冒頭でも触れましたが、空手は、ここ「沖縄」で誕生しました。

しかし、その認知率は県内で96.0%であるのに対し、日本国内では34.5%と寂しい結果。国内の空手への関心はまだまだなようです。(表5)

ですが、今年8月開催予定の「第1回沖縄空手国際大会」、そして2020年の東京オリンピックと、空手が注目される機会がぐっと増えます。これを機に、多くの方々に、「沖縄空手」の魅力を知っていただけたら素敵ですね。

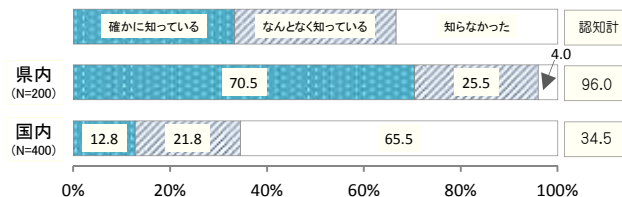


表5:空手発祥の地「沖縄」の認知(県内/国内共通)



(資料) 表1.3.4 沖縄県文化振興課「平成26年度沖縄県文化活動実態調査」  
表2.5 沖縄県空手振興課「沖縄伝統空手・古武道実態調査業務報告書」